

社員総会（第7期第3回 オピニオンメンバー会議） 議事録

日程；2024年3月10日（日） 午前10時00分より12時30分

会場；A P 浜松町 ROOM_C および Zoom meeting

（会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催）

議長：齋藤 健

議事録著名人：高木景子／藤本 淳

議案（審議事項）

- 第1号議案 令和5年度 事業報告および決算報告
令和5年度 会計監査報告
- 第2号議案 令和6年度事業計画・予算
- 第3号議案 委員会等の組織改編 ホームページ刷新進捗報告
- 第4号議案 日本歯科医学会認定分科会登録申請の審査結果について
- 第5号議案 ヘルスケアミーティング2024について

田中正大理事より第7期第3回オピニオンメンバー会議の開始の宣言があり、議事に先立ち以下のことを報告した。

- ・ 今年は永年会員表彰として入会20年以上、70歳以上になられた会員7名の方に、学会として表彰を行った。
- ・ 定款に基づき特別学会員の、新任・継続について報告した。
- ・ 会員数の動向に関して、今年度（2023年度）の会員数（2024年2月1日現在）。

歯科医師 623名（対前年度比20名減）

歯科衛生士 352名（対前年度比1名減）

歯科技工士（対前年度比1名減）

その他会員 41名（対前年度と変わらず）

計 1,018名（対前年度比22名減）と報告した。

続いて、議長の選出があり、齋藤健先生を指名した。

齋藤健先生（以下議長）より本日のオピニオンメンバー会議成立が宣言された。（会場25名・オンライン31名 計参加者56名 委任状21名）議事録著名人に高木景子先生と藤本淳先生を指名した。

議長：では1号議案 令和5年度 事業報告および決算報告を田中先生、お願いします。

田中：令和5年度事業について報告いたします。

- ・ オピニオンメンバー会議 (3月12日・10月15日)

- ・ コアメンバー会議など

コアメンバー会議は毎月第2金曜日の夜8時からWeb会議 (Zoom 利用) および適宜臨時Web会議を開催。議事録は、ホームページに公開。

その他、学会誌編集委員会、企画委員会、認定分科会対策委員会、ウイステリア委員会などがWeb会議で、毎月または隔月で開催された。

- ・ クロスオーバーミーティング (2023年12月1日、2024年2月2日)

オンラインにて委員会、フォーラム、プロジェクト、地方公認団体の代表者の交流集会を開催した (今年度は偶数月の第一金曜日の開催を予定している)。

- ・ ニュースレターの発行 (年5回)

- ・ 学会誌 (第24巻1号) の発行 (2024年2月)

- ・ ヘルスケアミーティング 2023

11月3・4日建築会館ホール (東京・田町) とオンラインのハイブリッドで「チェアサイドで実践するカリエスマネジメント」をメインテーマに開催。会場参加満席190名、オンライン参加74名、懇親会参加者90名。

- ・ 「健康を守り育てる歯科診療所」認証事業 (第20回認証ミーティング 7月9日)

AP新橋&オンライン (Zoom meeting) にて開催。外部審査員に渡邊両治さん (社会医療法人財団石心会の病院長補佐兼医療安全対策室長) と看護教員 (元慶応義塾大学看護学部助教授、現東京情報大学看護学部教授) の森田夏実さんのお二人を迎え、6診療所が審査を受け、いずれも認証審査に合格した。

- ・ 各種セミナー

第5期実践セミナー (2023年06月25日～2024年1月28日 オンラインを含む全8回) 受講者10名、修了者7名。

東京ワンデーセミナー2023 (6月25日 エッサム神田ホール2号館)

第16期歯科衛生士育成プログラム

基礎コース

オンライン 2023年10月31日・12月12日・2024年2月20日

実習 (会場；太陽歯科衛生士専門学校) 2023年9月18日・11月19日、

実技検定会 2023年12月3日・12月10日

第15期歯科衛生士育成プログラム (今期)

基礎コース

実習会場；太陽歯科衛生士専門学校 2023年1月29日・3年26日

実習会場；神戸常盤大学 2023年2月5日・3月19日

ヘルスケア歯科衛生士新人初期研修 2023年5月23日・6月6日・6月20日 (11:30)

～12:45) に Zoom meeting で開催。

- Web セミナー

5月13日(土) 20:00～21:30 (デンツプライシロナ株式会社主催)

マグネット式超音波スケーラーを導入するとどう歯科医院が変わるか?

佐野哲也(外部講師)、奥山洋実、山田美穂

5年21日(日) 9:30～12:00

ホームデンティストだから対応できる外傷歯と自家歯牙移植 泉 英之

6年11日(日) 10:00～12:00

歯科矯正専門医として伝えたいこと 有松稔晃

- オンラインサロン(毎月第二火曜日 12回開催) ホスト:古市貴暢, 島野圭介

議長:続いて決算報告を秋元さん、お願いします。

秋元:2023年の経常収益は対面事業の復活で事業収益は増加したが、それを費用が上回った。また会員数が若干減少し、2023年の自然退会者(会費未納者)は44名となった。収支差額1,110千円のマイナスです。

詳細は別紙の通りです。オピニオンメンバー会議併催セミナー2回、東京ワンデー2023、それぞれ小さな赤字です。黒字は、ヘルスケアミーティング2023とコミュニケーションセミナーです。その黒字を幾つかの赤字が消しています。

歯科衛生士育成コースについては入金後、期をまたいで支出しますので、期中での計算が難しいです。前期(2022年度)の決算期は、東京会場と関西会場に並行して実技実習が行われました。それぞれの2023年に行ったものがマイナス計上されています。今期は入金のうち、まだ6割程度の消化です。収支を考えるとマイナスですが、決算にひびくほどの大きな問題ではないと考えます。

全体としては、コロナ禍後の規制緩和により、対面式の催しが増えましたが、集客が期待どおりではありません。それに対して、会場費・講師謝礼・交通費などの負担が増えています。

企画商品に関しては、『こども歯みがき剤ガイド』のリニューアルに伴い、頒布品ガイドを刷新したことが大きな要因だと思います。ややプラスになっています。

少額ですが、事務局費が若干前年増です。事務局費は毎年同額ですが、今年の増額は10月以降のインボイス制度のスタートにより消費税の区分が厳密になりました。今まで計上していなかった消費税分の負担となります。

以上が決算報告です。2月19日に担当税務事務所の税理士が同席の上、鈴木正臣先生と河野正清先生に事務局に来ていただき、監査を受けました。

議長:それでは令和5年度会計監査報告につきましては、オンラインの河野(正)先生にお願いします。

河野(正):監査報告書にありますとおり、2月19日に鈴木先生と私とで、会計監査を行い

ました。会計帳簿・領収書・銀行残高等、綿密に調べまして、適正に処理されているという判断をいたしましたことを、ご報告いたします。以上です。

議長：河野（正）先生、ありがとうございます。鈴木先生、何か追加等はございますか？

鈴木：ございません。

議長：ありがとうございます。では第1号議案につき、質疑に移ります。

大井：会員数について、秋元さんから会員減が44名というご報告がありますが、ここでは20名減になっていますから、増が24名あったということですか。歯科医師会員の話です。

秋元：歯科医師は前年度比20名減です。自然退会者（歯科医師）が27名です。

大井：減るのはしかたないと思います。増に対するアプローチは、今現在どのように考えられているのか。現状のやり方を続けようというのか、それとも新たな減に対するアプローチが何かお考えがあるのか、コアメンバーにお聞きしたい。

議長：高橋代表、いかがでしょうか。

高橋：増にする対策を何かをしているか、ですか？

大井：24名の増がありますから、学会が歯科界に対してアプローチしている結果だと思えます。自然退会はいたし方ない。秋元さんのご説明どおり、日本の構造上人口減の中でこれはしかたないと解釈するのか、それともまだ歯科医師の増加を狙う余地があるから、こんなことをアプローチしよう、また、今までのアプローチしていることをこのまま継続する。など、どのようなお考えがあるのか。必ず毎回、この決算報告の時に会員減の話があるのでどのようにお考えなのかをお聞きしたい。

高橋：以前もこの会議で話をしたことがあると思いますが、私が昔計算した時は、上の年代の人は簡単に言うと150人いて、下の年代の人は100人みたいな。ですから自然に50人ずつ減っていくような試算だったんですよ、何もしなければ。

当学会の運営で言うと、歯科医師会員が増えないと運営は苦しいです。ではどうするかと言う時に、私がお願いしているのは、年間セミナーで歯科医師50人新入会。ホームページを刷新して、そこから幽霊会員でもいいので、入る人が歯科医師50人、というのが達成できれば随分変わるという話は、去年からしています。それが実現できるかは、なかなか難しい側面もありますが、具体的にと言われれば、そういうところを考えています。だからといって、それ言っているのは私1人です。「じゃあ分かった」と言って誰かが一緒に活動してくれているとか、そういう状況ではありませんが。

ただ、私がこの考えて至ったのも、このオピニオンメンバー会議で皆さんと一緒に秋元さんの決算の話を聞き、「あっ、そういうことなんだ」と思ってからですが、それは10年ぐらい前からずっと言っていることです。ですから、特別な知識を得て考え始めたことではありません。でもこれは、みんなでやらないといけないことだとは思っています。ほんとうに協力してもらいたいなと思っています。こんな回答で良かったですか。

大井：ありがとうございます。自然減は、ある程度しかたないのは含みだろうなと思います。いろんなセミナー、例えば多分ここに参加されているオピニオンメンバーの方々でも、

藤木先生の講義を聞いて感銘を受けて入会した方、杉山先生のセミナーを受けて、やってみたいと手を挙げた方もいらっしゃると思います。それを、藤木、杉山頼りじゃなく、高橋先生も大阪の地で何度も講演されていますので、そういったものをみなさんにもっとしていただければと願うばかりです。よろしく願いいたします。

議長：高橋先生、大井先生、ありがとうございます。他にございませんか。藤本先生、お願いします。

藤本：今の質疑応答での会員増への話で思ったのですが、私は先日 PHIJ という勉強会に出させていただいて、JOF っていう勉強会も入っていて、あと一隅会っていう勉強会も入っていて。皆さん全部、熊谷先生が基になっているような勉強会です。そこに参加して懇親会に出た時に、「ヘルスケアに入りたいんだけど、どんなことやってんの？」と聞かれました。あとはデータ取る時に、「ヘルスケアってどんなデータを基準にやってんの？」など聞かれます。

今のホームページやセミナーなどの活動が、うまく伝わっていないと実感しました。多分興味ある方も、調べてすぐ出てくれば分かると思いますし、日吉歯科のホームページ見ればデータの取り方の Excel があって、すぐ使えるようになっていたりします。今後の課題として、何か会員増に向けてやるのであれば、「ヘルスケアってこんなことやってるよ」と何かもっと伝わったらいいなと思いました。ご苦労されている先生方も多くおられますので、そう思っただけです。それをお伝えしたくて発言いたしました。

議長：藤本先生、ありがとうございます。コアメンバーの方、何かご追加はありますか。よろしいですか。では第1号議案につきまして、決を採りたいと思います。会場リアル参加の方は挙手で、オンライン参加の方は画面に投票が出ます。よろしく願いいたします。

ありがとうございます。100%承認です。

議長：では第2号議案に移ります。令和6年度事業計画につき、田中先生、お願いします。

田中：第2号議案、令和6年度事業計画について説明いたします。計画されているものは本日のスプリングセミナー。それから東京ワンデー2024は既に参加の案内が出ています。ベーシックセミナーやワンデーセミナーは、非会員でも参加が可能です。学会の入口でもありますので周りの方、興味持ちそうな方おられましたら、ぜひお誘いをお願いします。東京ワンデーは5月、大阪ワンデーは9月です。

「ヘルスケア歯科診療だからこそ必要なコミュニケーションセミナー」は9月に会場未定ですがリアル開催で計画されております。プレミーティングとして同タイトルのオンラインセミナーも7回を予定しており、それをリアルセミナーにつなげる予定です。既にオンラインは1回目が終了し38名のご参加ありました。半分くらいが非会員でした。

それから「歯科衛生士も知っておきたい全身管理の基本」が6月2日にオンラインで行われる予定です。

あと Vimeo (オンデマンド動画配信) の新作が、昨日リリースされました。「口腔内規

格写真 Perfect Master」という口腔内写真撮影のレクチャー動画です。ホームページから外部リンクで見にいけるようになっています。シーズンレンタル全 14 本の口腔内写真の勘所のセミナーです。1 年間見放題 1 万円ですので、ぜひご活用ください。カリエスのセミナー（全 7 回）についても、現在もレンタル可能です。併せてご活用ください。

ヘルスケアミーティング 2024 の記載がございませんが、第 5 号議案で取り上げますので省略いたします。

また、こちらに記載はありませんが、歯科衛生士育成プログラムも継続中です。現在今 16 期の終盤です。22 名の受講生で、3 月 31 日が最後の実技実習第 4 回目になります。前期は感染症対策として、長距離の移動を避ける、少人数での開催とするなど、東京と神戸の 2 カ所で行い、非常に経費がかかりました。16 期からはコロナ以前に戻りましたが、基礎コースに関しては、受講生 2 名に最低スタッフが 1 人は付くという構成になっており、22 名であれば 11 名、12 名くらいのスタッフで非常に手厚いフォローをしながらやっておりますので、どうしても経費はかかります。

それからスタッフ不足があります。昔いたスタッフが結婚・妊娠・出産などで育休中ということもあり、非常にスタッフ数が足りません。スタッフの段階がインターンシップ・準スタッフ・スタッフと 3 段階構成になっていて、以前まではインターンシップの方は見学のみで旅費交通費は自前でした。2023 年 12 月のコア会議で承認をいただき、インターンシップにお誘いした方にも旅費交通費を支給できることになりました。日当は出せませんが、そういった形で何とかスタッフを増やそう、育成しようと努力しております。

来期も同じようなかたちで、22 名程度の募集とします。できれば 24 人くらい集まれば収支的に余裕は出そうですが、スタッフ一同努力していきたいと思っておりますので、みなさま方のサポートなど、できる限りのことお願いいたします。歯科衛生士育成プログラムは当学会の大事な事業のひとつです。

議長：ありがとうございます。では予算につきまして、秋元さん、お願いします。

秋元：予算につきまして、本来は項目ごとに予算書を提出すべきですが、ほぼ例年どおりです。大きく変わる部分はヘルスケアミーティングが、今回は一橋大学 一橋講堂を借りています。同時に 2 日目は、講堂だけではなく会議室も借りて、2 会場を並行して行う予定になっており、会場費がかかります。その分集客数も倍増するというのを期待しておりますが、必ずしも歯科医師会員の参加が倍増するわけではありません。収支は非常に厳しくなるであろうということで、一律に参加費の値上げをするという予算を立てています。

それから予算書の場合は、かける人数を書いて幾らにする、一般定期にはそう書きますが、値上げによって参加者数が減ることも考えられます。絵に描いた餅のような予算書にしても意味がないので、参加費用を上げるということと、それから会員については幾つの特典割引などを設定する。それに学会活動に貢献したときに付与される「ヘルス通貨（学会内通貨）」で支払うことも可能です。ですから会員の負担が著しく増えることはないと考えております。全体としては参加しやすく数も増え、会費も参加費も増えるという

ことで会場も大規模な会場を借りることを何とか手当したいと考えています。

支出に関しては、先ほどもお話はありましたが、全体として整理が十分でないホームページを刷新すると去年予算を計上しましたが、まだ決裁しておりません。引き続き継続いたします。去年は使っておりませんが今年も同じように計上するというのを提案します。以上です。

議長：では第2号議案の質疑に移ります。いかがでしょうか。

大井：今の説明では、今回の10月のヘルスケアミーティングのみ参加費を増額させるという解釈でよろしいでしょうか。それともこれから増額のほうに動くよと理解するべきなのでしょうか。

もう1つ、決算報告の中で各セミナー・イベントの単発での黒字・赤字が説明されましたが、例年どおりそういうのがありますが、それで収支のバランスをうまく取ろうとしているように感じます。それを踏まえて赤字のところのセミナーやイベントの参加費の増額等は考えているのか、その2点、お聞きしたいのですが。

渡辺：補足します。赤字の1つの実践セミナーの件ですが、一昨年前、第4期がかなりの黒字でした。ですが、運営側の人数が足りず大変だったので、運営人数を増員して体制を整えましたが、第5期は参加者数少なかったのです。結果の赤字でした。来期は1年見送って、参加者数が集まるまでプールすることを河野（雄）先生からの提案があり、今計画している状態です。

秋元：発言に追加いたします。キャパシティーを大きくしたから定員は倍増なのですが、会場費は倍増するわけではありません。というのは、昨年の建築会館はキャパシティーも実質上200で、比較的安価な会場でした。コロナ以前に開催してきた秋葉原駅前の会場は、安くない会場でした。周囲はある程度スペースがありますが、キャパシティーそのものは大きくない。そういう意味では、割高だったと考えられます。それから全体の賃料の物価高騰の影響で、どこも上がっているということがあります。

ですから5年前の秋葉原と今度の一橋の比較は簡単にはできませんが、一橋講堂のホールそのものだけを2日借りる費用は、秋葉原よりも安価です。ですが、さらに広いスペースを2日目借りますので、比較は難しいです。キャパシティーを大きくしたからその部分の費用が増えるわけではありません。より会場費を合理的なものにしよう努力はしていますが、全体の物価高騰の影響と、今年のプランによって会場費・運営費の負担は従来よりかなり大きくなりますとご説明、訂正します。

大井：では、今回のヘルスケアミーティング2024のみ、参加費を増額させるという理解でよろしいですか。恒常的に増額に向かいますというお話ですか。

秋元：コアメンバー会議で、その議論はありません。

大井：分かりました。では各セミナー・イベントの収支バランスのことはいかがですか。

高橋：全ての催しは開催後に、反省、見直しは行っています。同じままそれが流れて行くことはありません。

議長：高橋先生、ありがとうございます。ほか、ご発言ございませんか。

では採決に移ります。会場リアル参加の方は承認の場合は挙手で、オンライン参加の方は画面の投票で操作をお願いします。100%承認です。

議長：では第3号議案は「委員会等の組織改編 ホームページ刷新進捗報告」。まず組織改編につきましては高橋先生お願いいたします。

高橋：委員会の改編についてです。元々は、その他のパートでみなさんに報告して相談するくらいの項目です。これをいつも、オピニオンメンバー会議で諮っていくものでもないですが、ちょうどいい区切りです、みなさんに報告したいと思って挙げています。

この後、認定分科会の話もいたしますが、認定分科会申請のために、認定分科会対策委員会をつくって活動をしてきました。2023年8月に申請して、その委員会の活動は終わりました。言葉だけ聞くとみんな、「ふーん、そうなの」という感じだと思いますが、この委員会は、意外と多岐にわたっての作業がある委員会になっていました。例えば学会誌に投稿するだとか、臨床研究の相談だとか、他にもあります。この委員会を終了するタイミングで他のことも一緒に見直して改編しましょうという提案です。

委員会・プロジェクト・フォーラムは皆さんもつくれるし、移籍してもいいし、入るのも抜けるのも自由です。ただ、ヘルスケア歯科診療を普及・啓発推進することがこの会の基本だと思うので、全く関係のないことはできないと理解してください。

今回、認定分科会対策委員会の中で残しておきたい活動を、「臨床研究プロジェクト」という名前を付けて、私と倉敷の岡先生とが担当しようと思います。やはりこの学会は記録を残して、それをまとめて発信をしていく会という役割もあるかと思うので、そこを一元化していきたいと思います。みなさん、どうでしょうか。今の自分の医院の立ち位置を知りたくないですか？と。田中先生などに振ると、よくそういう言葉が返ってきます。そんな身近な疑問を明らかにしよう、そのようなことをやっていきたいと考えています。

臨床研究と言われると、何かハードルが高く感じられますが、ほんとにちょっとした疑問を持っている人、ぜひ参加してみてもどうでしょうか。誰でも大歓迎です、5月ぐらいからスタートしていきたいと思います。私まで連絡をください。ここは私が頑張っていきたいと思っています、よろしくをお願いします。

もう1つ、この認定分科会対策委員会での仕事が、学会誌に総説を書いてもらうためのセミナーの開催です。ここ最近では学会誌に3本ほど総説が載りました。Webセミナーの対応は現在企画委員会の渡辺先生にお願いしようと思っています。

渡辺：「総説・Webセミナー」ということですが、やはり総説にするためには、それに対応する講師を招聘しなければなりません。みなさまの人脈で、是非この方というのがあれば教えてください。よろしくをお願いします。

高橋：この区切りから全体を見渡したときに、ニューズレター委員会と会誌委員会もリニューアルしてはどうかという話もあり、ニューズレター委員会には田中先生に責任者

をお願いして、会誌委員会については千草先生にお願いしようと考えています。

田中：ニューズレター委員会を担当してほしいと代表から言われましたが、実は今の林先生の前にも私が担当でした。出戻りということです。今回は委員みなさんに実務をお願いし、それを統括する役割をやっていきたいと思います。よろしくお願いします。

千草：会誌委員会を担当します、現在も担当しています、千草です。私は杉山先生から引き継いで、もう10年か11年ぐらいになると思います。そろそろ若い方に引き継ぎたいと思うのですが、自分がその準備も不十分でしたので、それを踏まえて今回新たに委員会を組み合わせたいと思いますし、今まで10年間頑張ってくださった先生も何名か残っていただきますが、新たに募集をしていきたいと思います。

特に事務局で制作・編集を担当してずっとサポートをしてくださっていた大宮さんが今年2月に退職され、制作部自体も恐らく形が変わると思います。委員会ももう少しちゃんと機能させたいと思います。すいません先に言うべきでしたが、今年は大変発刊が遅れて、申し訳ございませんでした。責任者として責任を感じています。今後、スケジューリングを含めてしっかりやっていきたいと思います。

興味がある方、あんまりいないと思いますが、論文を書いたことはある人、学会誌に投稿したことある人は、何となくその雰囲気分かると思う。私も正直そんなレベルなので、感覚が分かる人は、自分だったら一遍ぐらい協力できるよっていう人があれば、手は挙げにくいと思いますが、そとでいいので私に連絡ください。仲間に入ってもらえるととてもうれしいです。よろしくお願いします。

高橋：新しい委員会として認証委員会と、議案書に記載はないですが、企画頒布品の委員会を一元化しようと思っています。認証事業については、今まで認証ミーティングの担当者を何人かおいただけで、はっきりしない部分がありました。頒布品も、古い頒布品等を整理していきたいと思うので、新設として考えています。認証委員会は千草先生、頒布品委員会丸山先生、お願いします。

千草：認証委員会の千草です。代表がおっしゃったように、認証委員会とか認証支援委員会とかここ数年、迷走した感じがありました。1回名前もすっきり認証委員会にまとめて。運営は運営委員会、岡本先生が担当でありますので、そちらと協力しつつ認証の応募から更新までを含めて、一括して考えていきたいと思います。こちらも今まで協力していただいた先生には引き続きお声がけしようと思います。よろしくお願いします。

丸山：頒布品委員会です。頒布品は以前から事務局で管理されています。このチームができる時に「子ども用はみがき剤ガイド」を改訂したいという思いがあり、フォーラムとして発足しました。やはり頒布品に関しては学会員が責任を持って管理するということで、委員会に引きあげていただきました。

かなり経年した頒布品も多いです。適宜見直していくに当たり、より多くのメンバーに参加していただきたいですし、今回委員会ということになりますので、できれば何班かに分かれて活動して、現在ある頒布品を見直したい。または新たな頒布品をリリースする、

そんな活動ができればと思っています。よろしくお願いします。

高橋：このように新しい形でやってみようと思います。他にも何か提案を出していただいてもいいですし、今入っているプロジェクトやフォーラムを移籍することも自由です。その辺は仕事とはとらえずに気楽にお願いします。

実際集まりに出ると、「診療でこういうのはどうしてるの？」のような雑談があってもいいわけです。その目的のことだけをしなければならないという決まりはありません。いろんな交流の場にしてもらえたらうれしいなと考えています。よろしくお願いします。

議長：では次に移ります。第3号議案の2つ目、「ホームページ刷新進捗報告」につきまして、丸山先生。

丸山：昨年、新しいホームページを来年の春をめどに作ると、予算も付けていただいて、今春になりつつあるわけです。正直、しばらく迷走して、果たしてどうしたものか、という時期が続きましたが、最近業者も決まり定期的に打ち合わせをしております。ただ刷新と言いましても、見た目を変えることは、それはそれで十分なんですけど、内容、テキストをどこまで今まであるものを使って、どこを新しいものにしようか、という作業を今詰めている段階です。現時点で「何月何日変わります」とは申し上げられませんが、進めております、とご報告しておきます。

議長：では第3号議案につきまして、ご発言やご質問はございますか。林先生お願いします。

林：別表のプロジェクトの21番目、「DentalXとウイステリアの併用プロジェクト」についてです。このプロジェクトは、DentalXや他のデータベースソフトを使っているけど、ウイステリアにも入力していきたいなっていう人を集めて、どういう項目を入力をしていこう、キャリブレーションを決めて、こういう基準で入力していこう、みたいなプロジェクトで立ち上げました。

ある程度基準も決まって、プロジェクトメンバー内では大体同じ基準で入力できるようになってきて一区切り、これでプロジェクトは一旦終了かとメンバーで相談しています。今後は、ウイステリアを入力したけどどういう計測ができるのかなとか、そういうことがメンバーから話が出ました。

今回報告にも書きましたが、このプロジェクトは閉会にして、今後新たにウイステリアの検索フォーラムのようなものを立ち上げたいと思っています。DentalXを使っているとか関係なく、ウイステリアをデータベースに使っている先生方たちも含めて、興味がある方を募りたいと思っています。これはゴールデンウイークぐらいから進めたいと思いますので、ぜひ参加してください。よろしくお願いします。

丸山：度々すみません。議案からは外れますが、私も報告を1つ。「修復物サバイバルプロジェクト」ですが、「われわれの治療の修復物は、どれぐらい持つんだ。調べてみないか」みたいなプロジェクトが活動しております。ニュースレター1号に小さく報告で出ておりますが、今回ペーパーとしてまとめることができました。今日リアルの参加の方々には別刷りをお渡しします。PDFでもメーリングリストでもご覧になっていただけます。ぜひ

渡した別刷りを、「こいつ、読みそうだな」という方に渡していただいて、「仲間がこんなことやったんだよ」とアピールしてほしいと思っております。よろしくをお願いします。

このプロジェクトは論文をヘルスケア歯科学会ではなくて、補綴（ほてつ）学会に出してしまったもので、学会のポイントにならないじゃないか、というお叱りも受けながらなんですが、一応1つやり遂げたので、今後何か新たな活動をしていくのか、同じ方向性のことをやっていくのかを相談しています。もし別の新たなチームなり、引き続きなり、リニューアルを考えればまたご案内しますので、ぜひご参加よろしくをお願いします。

議長：他、ご発言ご質問はございませんか。

では私から質問いたします。この別表も今後変わっていくということですが、委員会とプロジェクトとフォーラムの違いなど、改めて説明していただけますか。

丸山：委員会は、学会を活動させるに当たって必須のものです。一時秋元さんが骨となり血となりという表現をされたと思います。それが委員会です。会誌を発行したりニュースレターを作ったり、頒布品もしかり。認定分科の申請の時には委員会を作りました。そういう感じです。委員会はやりたい人は基本受け入れていますが、会の基盤部ですから、ある程度声掛けがあってメンバーが決まります。

プロジェクトは成果や目標を定めている組織です。場合によって目的が達成されて解散になることもあるでしょうし、ずっと永続することもあるのかもしれませんが。プロジェクトは募集してメンバーが決まりますが、逐次新たなメンバーを受け入れるかどうかは内容による。そういう位置付けだと思います。

フォーラムはほんとにそのテーマに沿って関心のある、興味のある人が集まるグループです。代表からも話がありましたが、必ずしもそのテーマに沿って何か成果を上げなければならない訳ではありません。逆に言うとプロジェクトは、ある程度の成果を出すことが求められたグループと認識してください。フォーラムは、定期的に仲間と集う場であっていいと思いますし、その中から何かみんなに示せるような成果が出れば、もちろんありがたいです。できればそこには、最初発足の時にはオピニオンメンバーの皆さんに、「どこかに所属してください」と言いましたが、今後は一般の会員も入っていただければと思うし、こういうフォーラムの組織がもっとたくさんできれば望ましいと考えています。

あとそのくくりで、今回公認団体にも、「活動報告を出してください」と求めました。地方の公認団体とフォーラムとの違いは、どれだけ地域にこだわるのかということかもしれませんが、そのような位置付けで委員会・プロジェクト・フォーラムを考えています。よろしいでしょうか。

議長：丸山先生、ありがとうございます。こちらは採決はございません。次の第4号議案の

「日本歯科医学会認定分科会登録申請の審査結果について」高橋先生、お願いをします。

高橋：認定分科会への申請が否決されたことを、報告させていただきます。2月に認定分科会の申請は否とする結果が届きました。内容はこの議事録にも記載したとおりです。

今回、当学会としては2回目の申請です。元々2回目の申請をする予定はありませんでしたが、2019年でしたか、認定分科会の理事の方に、「ヘルスケアはいい活動してるんだから、認定分科会に入ってきちんと活動したほうがいいよ」といった感じで勧められて、申請を目指したのがきっかけです。

ただ、申請するつもりがなかったもので、準備には時間がかかりました。なおかつ申請が2年に1度というルール変更もあり、先延ばしになったところ、当会を応援してくれる方が退かれてしまった、という現実があります。また個人的には、ヘルスケアのこれまでのフォーマットをなるべく変えずに、申請準備をしていったという経緯もあります。そういう状況もありましたので、個人的には否決もある程度は想定していました。ただ結果の通知書を見てもらえばわかりますが、厳しい文面が並びます。

では、当会を応援してくれるメンバーが残っていたら申請が通ったのかと言われると、わかりません。また指摘されている文面は、事実誤認もあるように思います。どこまできちんと審査がされているかもよく分かりません。例えば、1回目申請時にはなかったことがこの2回目の時は指摘が加わっているとか、議決機関と執行機関が分離されていることが確認できないとか、ちょっと指摘がおかしいと思う項目もあります。

今日、別途配布資料がお配りしました。オンラインの方はMLにPDFを添付しております。会員みなさんにもきちんと説明できるようにコアメンバー会議では、このような文章を作成し、現在まとめ中の状況で、日本歯科医学会に疑義の申立てを行う予定です。また会員に向けては、一緒に配布した資料をWebに公開し、記録として残したいと考えています。これについての方向性をどうしていくのか、コアメンバー・オピニオンメンバーの意見も聞いて、まとめていきたいと思っています。

この否という結果は残念ではありますが、私は申請準備をしながら思ったことは、論文や総説の本数を毎年気にしながら運営することは現実的に苦しいということです。そんな足かせがないということは、逆に自由だということです。ここをプラスに捉えて活動していくのも可能ではないかと考えています。この認定分科会に、当学会が命運をかけていたわけではありません。当学会の活動自体がこれで大きく変わるということはありません。ただ認定分科会に入れば、会の活動の幅が広がるのではないかと、とは思っていました。しかしそれと同時に制約も付いてくる。

コアメンバー会議でも私は言ったと思いますが、日本の組織で1年生が何かできることはまずない。それはもうどこの組織でも一緒じゃないですか。ならそこから何か積み上げていかないといけないでしょうね、みたいな話をしていたので、そういう足かせはないという状況かなと思います。みなさん、ぜひこれを読んで感じたことを教えてください。

今はまだ、コアメンバー会議での議論中ですが、そんなことを考えつつの現在になります。
議長：高橋先生、ありがとうございます。では第4号議案につきまして、ご発言ご質問はございますか。

高橋：なかなかこの場では言いづらいとは思いますが。この資料を見て感じるどころがあった

ら私にいつでも教えてください。ぜひ何かいろんなことに反映していきたいと思います。よろしくをお願いします。

議長：高橋先生、ありがとうございます。では第5号議案に移ります。まず1日目「ヘルスケアミーティング2024について」ですが、1日目は千草先生をお願いします。

千草：はい。ヘルスケアミーティングの1日目に関して、企画趣旨は議案書にも挙げています。ヘルスケア診療でまず目指すものとして、初期・中等度の歯周炎を治癒させて管理するってことがあります。この言葉も何度も皆さん聞いているでしょうし、他方でもいろんな方の話も聞いていると思います。今年は藤木先生を中心に丸山歯科の大本さん、おおい歯科の志摩さん、青森の滝沢先生と、大西歯科の野村さんというメンバーで、このことに対してまとまりのある講演会、セミナーを企画しています。

フルメンバーでは、先週初めてミーティングをしたばかりです。メンバーの方向性を今一致させている状態ですが、中心が藤木先生になります。藤木先生メインの講義も、久しぶりだと思いますので、ここでしっかりと藤木イズムをもう一度確認して、知らない若い先生には浸透させていきたいと思っています。

まだ詳細は決まっていますが、来年もこのパート2的な、アドバンス的な内容の企画を考えております。今年はベーシックな部分を再確認しつつ、できれば新たな表現の形で理解を深められるようなものになりたいと思っています。院長だけじゃなく、当学会らしく、スタッフの方みなさんが来てくれるのを期待しておりますし、私も九州からスタッフを連れて行きます。せっかく会場が広いのですから、がらがらというのも寂しいので、久しぶりにコロナ前のようにみんなが集まって、藤木先生の大西歯科の話聞く。そして理解を深めて実践する。やってみて来年もう一度みんな考え直す、といった会になるように企画しています。極力早めにいろんな情報も発信していこうと思います。みなさまご参加、よろしくをお願いします。

丸山：2日目になります。やはりコロナ前ですが、複数の会場で同時進行的に幾つかのプログラムを開催したという時期がありますが、コロナがあり、近年はそういうわけにはいなくなり、1会場のプログラムが続きました。今回は大きめの会場、さらに2会場並行プログラムを、という予定を組み、3コマ2会場で計6個のプログラムを計画しています。

医院づくりにシフトをしたようなプログラムだったり、1日目を受けて、「続きは2日目」みたいなプログラムもあります。ヘルスケア歯科衛生士からの症例発表を中心にと書いているプログラムもありますが、すでに演者も決まっており、それぞれで進行状況に多少差はありますが、準備を進めています。インバウンド需要で昨今の宿泊費も高いですから、スタッフさんを連れて1日目を聞きに来るに当たり、ぜひどれを聞こうっていうような、充実した2日目にしようと思っています。

あとオピニオンメンバーにもクロスオーバーミーティングでもご案内をしています。当日の各プログラムでのお手伝いや、現時点でもまだ同じ企画に関わるならば、こういう

話を聞きたいんだけど、みたいなオーダーもしていただいていると思いますので、ご協力いただける方はお知らせください。

オンラインでは、全部のプログラムを配信することはできませんが、もしどこか1つのプログラムにご協力いただける方には、全ての録画が見られる特典を付けようと思っております、よろしくお祈りします。

議長：それでは本日の議案につきまして、すべて終了いたしました。全般にわたって何かご発言がありましたら一度お伺いいたします。河野先生お願いいたします。

河野（正）：8点ほど発言します。代表にご返事をいただきたいと思っております。まず1点目、決算報告が110万円の赤字でしたが、それに対してどのような評価をしているのか。この質問の答えについて、コアメンバーとしての何かコンセンサスがあったのか、議論があればそれでもいいですし、なければ高橋代表の個人的な意見でもどちらでも結構です。

高橋：今は赤字になる催しについては、常に取り組みはしています。ただ、セミナーなどは、参加する人の負担もできるだけ抑えてあげたいという意見もあります。そこは黒字を出そうというより赤字にならないように、と考えています。

例えば今回の第5期実践セミナーで言えば、募集に対しての応募が予想に反して少なかったという事態が発生しましたが、次はそれにどう対応していくかなど、常に対策を意識した運営には努めています。

河野（正）：分かりました。いろいろと苦労しながら、悩みながら、会の運営をしているということが分かりましたので、ありがとうございます。

それに関連して、2つ目。各行事の決算を見ますと、Webセミナーは黒字傾向、リアルセミナーは赤字傾向ということですが、その辺はどう考えですが。今、他の業界でも知識だとか理解を求めるようなものについては、ほぼWebになりつつあるようですが。先日監査の時に、担当税理士さんから「もう今や税理士の中での研修会は、ほぼWebのみです」というお話を聞きました。どうしてもリアルで会いたいという気持ちもあると思っておりますが、リアルで会ったほうがいいものと、Webで十分なものを切り分けたらどうか。今年度もワンデーセミナーがリアルで東京と大阪であります。非常に危惧しております。Webとリアルの切り分けみたいなのについてはどんなような原則というか、お考えがあるのか教えていただきたいのですが。

高橋：これは私の個人的な意見も入ります。Webとリアルの切り分けというかバランスの取り方は、正直、現在模索している最中です。1つ実践セミナーで言えば、2022年第4期はオールWebでした。決算上は大きな黒字でしたが、内容としてコミュニケーション不足という点で課題が残りました。だから、今回はWebとリアルの組み合わせを考えたという流れになりました。ここはまだ、どういう形がいいかは模索しながら、試しながら行っている最中です。

東京と大阪のワンデーセミナーに関しては、河野先生の質問の答えにはなっていない

かもれませんが、運営側にできるだけ若い先生に参加してもらい、運営のやり方や工夫、ヘルスケア歯科診療の伝え方、集客の方法などを学んでいただく機会にしたいと思って、取り組み中といったところです。そういう若手育成の場も模索しているところです。

河野（正）：いろいろと考えながら運営されているということが伝わってきました。ありがとうございます。

3つ目です。今日もそうですが、オピニオンメンバー会議や認証ミーティングの後にセミナーを開催するのが、ここ数年のパターンのようです。私の記憶の限りでは、せっかく足を運んでくれた人に半日で終わるのは申し訳ないから、午後にセミナーでもやろうか的な感じで始まった気がします。しかし、そのセミナーをやることによって大きな赤字が出ていますので、セミナーで釣るのではなく、午後の時間を会員の交流の場のようなものにしてコミュニケーションを図るなど、変えてくのも1つの方法だと思います。これは思いつきの提案です。

高橋：ありがとうございます。それも1つのいい提案だと思います。そういうことぜひ考えていきたいと思います。田中先生、よろしくお願いします。今担当まで決めました。

議長：スプリングセミナー担当は田中先生だったと、こういうことでございます。

河野：ありがとうございます。ここまでが決算報告を見て心配していたことへの質問でした。非常に苦勞しながら、考えながら運営されているのはわかりましたが、「なるほど。じゃあ大丈夫だな」とはまだ思えないような内容だと私は思いますので、今後コアメンバー会議の中で、またしっかりと議論していただけたらと思います。

4つ目です。認証ミーティングですが、参加者もだんだん増えてきて、非常に喜ばしいことだと思いますが、ここ数年は東京開催が続いていると思います。実際その認証を受ける診療所を見ますと、半分が東京近郊参加者だが、半分は地方参加者ということですので、場合によっては九州や北海道で開催をして、遠い地方の方が参加しやすいような、認証に興味がある方がスタッフをみんな連れて、どんなことをやるのか見たいなと思った時に、東京まで全員で行くのは非常に負担が重いので、地方開催の配慮があれば参加しやすいなという方もいるのではないのでしょうか。これはちょっとした提案です。

高橋：はい。地方開催も考えていいと思います。ただ、地方開催のほうが学会として経費がかかる感覚があります。秋元さんいかがですか。

秋元：基本的には地方開催のほうが経費はかかります。それは人の移動量が多くなるからです。

高橋：ただ何か工夫して、河野先生の意見も反映できたらというのは検討していきたいと思っています。

河野：ありがとうございます。それで十分です。

5つ目です。前回のオピニオンメンバー会議で、認証診療所のブランディング化ということが提案されて、議事録にも記載されました。しかし月々のコアメンバー会議の議事録を見ますと、10月27日開催の臨時コアメンバー会議の議事録には「考えましょう」と載っておりますが、11月・12月の議事録には全く載っていません。これは、今後また議

論しますよ、ということなのか、何となく立ち消えになっているのか、心配しておりますがいかがでしょうか。

高橋：認証についてですが、まず前回のオピニオンメンバー会議で、秋元さんが認証のブランディング化ということをご提案されました。その時の提案を思い出してほしいのですが、ブランディング化のために5年定期管理成績を調べて公表して、ブランディング化に近づけようという提案だったのです。

ところが、それに対していろんな方から他の意見や提案が出たというのが、あの時の構図です。その時の意見に関してはコアメンバーが手分けをしてヘルスケアミーティング時などいろんな機会にさらに詳しく聞き取りを行っています。

秋元さんが提案してくれた5年定期管理という、臨床研究的なところを進めようというのは認証更新の条件にもなるので、私が今日提案した臨床研究の委員会で、そこは継続的に詰めていきたいと考えています。今の進捗状況はそういうところですよ。

河野：認証診療所とか認定歯科衛生士とか、この学会の非常に大きな柱となる事業ですよ。しかし「認証取って何かいいことあるの?」とか、「何のため取るの?」という議論がずっと前からくすぶっていますので、その辺コアの中でも少しは考えていただきたいなと思ってお聞きしました。今後とも継続していただけると、うれしいです。

6つ目です。以前のオピニオンメンバー会議で、コアメンバーを退任した方に何かポストを用意して処遇しようという提案が丸山先生からあったと思います。継続審議にはなっていると思いますが、やはりコアメンバーを長年やられて、辞めたら一般の会員というのも違う気がしますので、ぜひその辺をもう一度コアの中で考えていただけたらなと思います。名称は顧問とかそういった、どこにでもあるような肩書でいいと思います。その辺の議論はどうなっておりますか、お聞きします。高橋代表をお願いします。

高橋：はい。分かりました。検討したいと思います。

河野：最後です。コアメンバー会議の議事録が最近非常に簡便過ぎて、どんな議論をなされたのか、なぜそういう議論が起きたのかということが、全く分かりません。例えば、今公開している11月か12月か、最新の議事録ですが、去年のヘルスケアミーティングに関して、私の知る限りでは非常に評判が悪かったと記憶しております。そのことについて、コアメンバー会議で一体どういう議論なり反省をしたのか、とても興味がありました。議事録に書かれていた「ヘルスケアミーティング2023について」の反省ということで、「別紙のとおり」とありましたが、別紙がなく、一体どういう議論をされたのか、全く分かりません。

それから歯科衛生士育成プログラムについての、インターンシップにも旅費・交通費出しましょうという議論があったと思いますが、なぜそういう議論がされたのか、なぜそれが必要なのかということが、私は関係者なので分かりますけど、あれだけ見るとまったく分かりません。もう少し丁寧な議事録を付けていただければ、どのような議論がなされているのか、一般会員も理解できると思います。お願いいたします。

高橋：議事録の見直しも図っていきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

河野：よろしくお願いします。以上です。どうも長々すいませんでした。

議長：河野先生、今7つですけど、よろしいですか。

河野：はい。これで結構です。

議長：まだ発言したという方はいらっしゃいますか、大井先生。

大井：最後に丸山先生が今年度のヘルスケアミーティングの2日目で、お手伝いを追加募集されていましたが、現状どれぐらい手が挙がっていて、あとどれぐらい欲しいのかがわかれば、「じゃあ私も参加しよう」「私もお手伝いしましょう」とこちらも手を挙げやすいと思います。数字的に出していただくことは可能ですか。

丸山：演者以外の方での協力者の数は、ゼロも含め1・2ぐらいまでです。だからあなたが手を挙げてくれたところは大井先生と、あともう1人の人は他のところで演者になるかもしれません。当日、人が移動するのに当たって、そのパートの人たちによっては事前準備や機材チェックもありますし、できるだけ前に誘導しようだとか、録画のチェックなどもあるので、直前になっても人がいなければ、誰かに声をかけるという状況です。このままの人数で当日を迎えるような態勢になったら、私から1週間2週間ぐらい前にいろんな方に声をかけないといけないぐらいです。

古市：私もお手伝いしたいと思っていますが、どれぐらいの頻度でミーティングがありますか。地方ですのでオンラインでミーティングをして、当日のお手伝いで済むみたいな感じでも可能ですか。

丸山：担当者がミーティングでの東京集合はありません。

古市：ありがとうございます。

秋元：議長よろしいですか。事務局長は発言を控えなければいけません、第4号議案について少し解説をしてよろしいですか。

議長：ではお願いいたします。

秋元：先ほどお配りした認定分科会の資料の1つについては、代表名で登録を否とする結論に対して執行部はどのように考えるかという、会員およびオピニオンメンバーに対する説明資料です。これは杉山先生が書いたものに高橋先生と私が手を入れています、その後かなり議論があったために、このまま解釈されると不都合な部分もあります。

それから、もう1つは日本歯科医学会の住友雅人会長に対する当学会からの疑義を申し述べる文章です。この文章の全段階で、日本歯科医学会に対する抗議の文章を書きましたが、コアメンバーの多くから否定的な意見があり、緩やかに書き換えました。今私がマイクを取りました、この緩やかなものについてもコアメンバーの中では「もう少しあいまいに、波風が立たないようにしたほうがよい」という意見があります。

私は何を言っているか分からないことを聞いても何も返ってこないという意見と、もう一つは前回平成23年に申請して24年に否という結論をいただきましたが、その時の登録を否とされた回答は、1つは専門性に関する問題、もう1つは論文数に関する問題、

この2つでした。

だが、当学会でも総説をたくさん作ることによって、認定分科会の基準5編をクリアしようとしたわけです。そして今回の回答では、クリアできていると彼らは答えてくれています。にもかかわらず否となっている理由には、執行機関、つまりコアメンバー会議（理事会）と、会の議決機関、このオピニオンメンバー会議（代議委員会）が明確に分かれていない、そのような規定がないということを理由として挙げています。これに関しては明らかな事実誤認です。

形式的かもしれませんが、選挙管理委員会も存在し、会員全員に対して期日を決め選挙を行っています。そして結果、集まったオピニオンメンバー会議で選挙をして執行部を選び、執行部が臨時の理事会を開いて、代表を決定しています。そして代表者が副代表、その他役員を決定しています。このように執行部と、執行機関と議決機関は明確に分かれていますし、河野先生からはご批判はありましたが、どの学会よりもオピニオンメンバー会議に関しては、逐語的な議事録を一般公開しています。

少し調べれば、この学会が議決機関と執行機関が分かれていないなどと言えるわけがありません。それで否とするという結論を出してくることに私は強く異論を唱えたわけですが、コア会議では「強い口調はやめてほしい」という意見が強く、現在ここにある住友殿という文章は、抗議のニュアンスは控え、質問の部分だけになりました。事実誤認の部分は今後のためにも確認しなくてはなりません。

それからもう1つは最後に書きましたが、もっと論文をと、総説や調査報告が多いですねと、もう少しちゃんとした原著が欲しいですね、という努力目標がかかっているんです。これに対してはそうではありませんよ、学会といっても、現場を持っている人たちが中心に構成している学会の役割というのは、現場の疑問とか、現場でぶつかる問題をちゃんと挙げていって、そこで研究することは尊いし、大事なんだと。純粋な研究ではないですか、と言われますが、まずわれわれのその研究は重要なんだ。もっと純粋な研究をそれとするならば、それをベースにしたフィールドの研究や、実験施設での研究や、実験的患者を使った研究するのはそれは結構ですが、そちらが重要で、当学会がやっているような、つまりバイアスがたくさん、ごみがたくさん情報は重要ではない、としたかのような認識は違うのではないですか、と。現場での疑問、現場での研究は、極めて尊く大事なんですよと、それをご認識くださいということは言わねばなりません。

杉山：秋元さんの発言に追加です。今回のこの回答をいただいた時に、せめて記録として、文書として残すべきだと、私はコア会議で発言しました。そうしないと後々わからなくなると思ったからです。そのために回答文書をしっかり読み返したところ事実誤認も甚だしく、抗議書として書いたのが、最初の文書の骨子です。

特に基準の1は、どう読んでも理解できません。私たちの会ほどこれに合っていることはないだろうと、私は思いましたが、それにはあたらないとのこと。あいまいな認証基準を決めて、落とすことなのかもしれません。そのようにも読める、基準の1は「歯

科医学の発展に寄与する独自の研究分野、複数の領域にまたがる複合的な研究分野および社会的要請の強い研究分野などを含む、専門学会であること」なんですよ。「まさに俺たちのことじゃん！」

それに合致しないから却下というのは到底納得のいかないことでした。

それから秋元さんが最後に言ったことは、実は昔インディアナ大学の D.ゼロ先生の来日時や、N.ピッツ先生が日本に来た時に投げかけた質問で、私たちがやっているような日々のデータを記録してきちっと分析していることをどう思いますか、と聞いたら、ピッツ先生はコクランのようなクオリティーの高いものになるほど現場と乖離（かいり）していくものだ。しかし全部同じレベルで大事なんだと。症例報告も現場の報告も、後ろ向きも前向きも、そのさらにコクランもあるけど全部同じで私は見るよということをはっきりおっしゃいました。これは豊島先生も一緒聞いていらっしやいました。

ゼロ先生はヘルスケアミーティングの時に私が出したう蝕のデータに対して、こういう取り組みは全員がやってほしいというコメントもされていました。実際アメリカではそういうところに多額の資金を使って、臨床医のデータを収集しています。これは今も続いています。それなのに、日本の皆保険でやっている日々のデータを全然集めず、何か分からないことだけの学会をつくっていくという方向性は、明らかにおかしいと思いました。

議長：秋元さん、この 2 番目の「歯科医師の会員は日本歯科医師会会員であることが望ましい」と書いてありますが、これ何ですか。

秋元：承認条件です。それは、日本歯科医師会がつくっている団体が日本歯科医学会ですから出発点は。日本歯科医師会は、今会員を増やしたい。日本歯科医師会は現在 20 代の会員は 38 人しかいませんので。そういうこともあり日本歯科医学会を会員増というのは非常に大事なのですが、歯科医師会が日本歯科医学会に対して資金を 4 年に一度出しているにもかかわらず、日本歯科医学会には会員ではない先生方が非常に多いのです。特に大学の先生の中では正会員はもちろん、準会員でもない人がたくさんおられる。だから開業医の学会を大事にしたいというのが、日本歯科医学会としてはあるんですよ。けどそこは触れないということですね。

議長：ありがとうございます。

斉藤：ご意見よろしいですか。今の秋元さんと杉山先生の話聞くかぎり、とてもごもつともなのですが、何でコアメンバー会議ではテンションをさげる意見になったのでしょうか。そのまま異議申立てしていいのではないかと、私は思いますが。

丸山：コア会議で、声のトーンは下げてくれと言ったのは私です。私はこの回答を見た時に、「あっ、もう入れたくないんだな」と思いました。私も認定分科の委員会に関わり、準備したつもりで提出して、この返事をみました。

さっき秋元さんが純粋な研究、ピュアな研究とおっしゃいましたけど、要するにそういうものを求めている学会の集まりなんだったら、われわれはそこにはもう入れないん

じゃないか。やはりわれわれは独自の道を歩めばいいんじゃないか、と思ったんです。

われわれにシンパシーを感じてくれている人たちも、以前はいて今はいないという話もありましたが、でも今でも学会として交流のある人もたくさんそこにはおられます。そこに感情を基にして抗議をするのは、今後のお付き合いのこともあるし、これからだってわれわれ独自だけで進めていけるわけではないので。最初に出た文章は、ほんとうに過激でした。だからもうその感情での抗議はやめてください、ただ事実誤認があるという主張はいいですよといいました。

学会としてだったら、文書でもいいのかなとは思いましたが、どこかで聞いた話ですが、以前は駄目だった会に対してヒアリングなど、要するに会談をする場を設けているはずだから、そういう場で気になることがあれば言ってもいいのではないかという話を聞きました。以前関わっていた方の話なんですけど。

現時点で、日本歯科医学会からそういう場を設けるような話は一切ありません。だからといって、いきなり抗議文ではなく、まず電話などで、ちょっと疑義解釈について話し合う場を設けていただけませんかというソフトな感じで言う方法はどうかと言いました。斉藤先生への返事になっていますでしょうか。

斉藤：個人的には、結局私たちが入るような団体ではないのであれば、もう今後付き合いはないわけですから、今後のことよりも言いたいことは言うべきだと思います。私たちがここで泣き寝入りすることはないと。

私たちの会の設立趣旨にもありますけども、やっぱり歯科界をいいように変えてこうっていうポジションなので、ちゃんと言うべきことは言って、何かしら主張はしないと今後おんなじような学会や、そういうことにチャレンジしようとしているところが結局そのままになったら、私たちのせつかくいい立ち位置が、何でトーンを下げたのかが気になりました。コア会議でみなさんが了承されたのであれば、それは問題ありません。

ですが、言うべきことはちゃんとやったほうがいいのかな。今後のお付き合いがあるからマイルドでいこうというのは、何か私たちの学会らしくないなと思いました。個人的な意見です。ありがとうございます。

議長：岡本先生、どうぞ。

岡本：コアの岡本です。今の件について、先日コア会議で話した時の内容で、ちょっとトーンを下げるとか、そういう表現もやや誤解を伝えるかなと思います。例えば、前回の時もお話しさせてもらいましたが、私は保険関係の仕事をしていますので、ああいう役所的な文章に普段からよく接しております。例えば杉山先生が最初読んだ時にはさらっと読まれて、2回目によく読むと事実誤認や意味不明という、そういう非常にいんげん無礼な、角が立たないような、かといって非常に失礼な、そういう文章が多いです。

それに対してストレートに書いてしまうと、単なる暴言になってしまうところはあります。それもどういふふうに取りれるかというのは、みなさんの考え方があると思います。ただ、かといって書いてあるとおり、非常に事実誤認であったり、失礼な文章であるとは

思います。そのことを冷静にきちんと質問をする。それは向こうの記録に残るかどうかわかりませんが、きちんと記録に残す。きちんとした団体であれば、手順を踏んで申請をしたところから何らかの質問や意見が上がれば、それを無視すること自体がその会の信用を非常に失うことですし、対応しなければいけないことだと思います。

ですからもちろん控えるとか、面と向かってけんかをしないように、という意味合いもありますが、決してトーンを落とすとか、内容をマイルドにするということ自体が妥協するというのではなくて、そういうような形で行うという意味合いで話をしましたので、ご理解いただければと思います。以上です。

議長：岡本先生、ありがとうございます。斉藤先生、よろしいですか。

斉藤：ありがとうございます。

議長：それでは、他にはございませんね。ここで本日、議長を降りたいと思います。皆さまのご協力で、ここまで進めることができました。ありがとうございます。

田中：齋藤先生、見事な采配ありがとうございます。認定分科会の件については、憤まんやるかたないのはコアメンバー全員一致しております。それを岡本先生のおっしゃったように、事実だけ指摘して回答を得たいと思っております。

本日はこれにて終了いたします。ありがとうございました。

以上